

# 高向神社南遺跡

—府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会  
河内長野市教育委員会



# 高向神社南遺跡

—府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会

河内長野市教育委員会

## はじめに

府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」に伴い河内長野市高向所在高向神社南遺跡の発掘調査を実施しました。

河内長野市高向は、古代豪族として有名な高向氏ゆかりの地です。一族には、608年に造陵使小野妹子にしたがい中国にわたり、帰国後は国博士として活躍した高向玄理がいます。高向神社南遺跡の西には、高向氏の拠点と目されている高向遺跡があり、整然とならぶ奈良時代の建物群が見つかっています。

本調査成果の中で、古代の木炭窯が発見されたことは注目されます。高向遺跡には多量の木炭を消費する鍛冶工房があったらしく、高向神社南遺跡の窯で焼かれた木炭が提供されていたものと推定されます。

このように高向神社南遺跡の発掘調査は、高向氏の本貫地である高向の歴史、ひいては古代豪族の実態を解明する貴重な歴史資料になります。

今回の発掘調査は、河内長野市教育委員会と共同して実施しました。発掘調査の実施にご協力をいただきました地元の皆様ならに関係機関に深く感謝いたします。今後とも、文化財保護行政にいっそうのご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

大阪府教育委員会事務局

文化財保護課長 野口 雅昭

## はじめに

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう街道の要衝として発展してきた街です。このため、市内には数多くの文化財が残されています。

本市は、大阪市内への通勤圏に位置しているため、住宅都市として発達してきました。この住宅開発がもたらした文化財や自然に対する影響は大きなものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は、開発と直接的に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、現在の、更には未来の市民へと伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であります。本市においては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は、高向地区にある高向神社南遺跡の発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達の残したメッセージの一部である文化財に対するご理解を深めていただくと共に、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

発掘調査に協力していただきました方々の埋蔵文化財への深いご理解に、末尾ながら謝意を表すものです。

平成22年3月

河内長野市教育委員会

教育長 和田 栄

## 例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財保護課が大阪府環境農林水産部の依頼を受けて、河内長野市教育委員会と共同して実施した河内長野市高向所在高向神社南遺跡の発掘調査概要である。
2. 現地調査は、河内長野市教育委員会社会教育課長尾谷雅彦、同課島津知子、大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ主査小山田宏一が担当し、平成19年11月4日から平成19年12月29日、平成21年4月13日から平成21年5月27日に実施した。遺物整理は河内長野市立ふれあい考古館において、平成20年度から平成21年度に実施した。大阪府教育委員会では調査管理グループ主査三宅正浩、副主査藤田道子が担当した。
3. 本書に用いた標高は東京湾平均海面（T.P.値）、座標値は世界測地系平面直角座標（第VI系）である。方位は座標北である。
4. 調査番号については、大阪府教育委員会の平成19年度は07042、平成21年度は09003である。河内長野市教育委員会の平成19年度はTGS07-1、平成21年度はTGS09-1である。
5. 本書の遺構名は下記の略記号を用いた。なお、遺構番号は、平成19年度調査と平成21年度調査の通し番号である。  
S B : 堀立柱建物 SD : 溝 SK : 土坑 SY : 木炭窯 NV : 自然流路
6. 写真測量については、平成19年度は富士測量株式会社、平成21年度は株式会社アスコに委託して実施した。撮影フィルムは各社において保管している。
7. 出土遺物の写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
8. 調査で作成した記録資料と出土遺物は、大阪府教育委員会で保管している。
9. 本書の執筆は尾谷と島津、編集は島津が担当した。
10. 発掘調査、遺物整理及び本書の作成に要した経費は大阪府環境農林水産部が負担した。
11. 本書は、300部作成し、一部あたりの印刷単価は、572円である。

## 本文目次

第1章 位置と環境 .....	1
1 地理的環境 .....	1
2 歴史的環境 .....	5
第2章 調査に至る経過 .....	5
第3章 平成19年度の調査 (TGS07-1) .....	7
1 調査成果の概略 .....	7
2 遺構と遺物 .....	7
3 小結 .....	14
第4章 平成21年度の調査 (TGS09-1) .....	18
1 調査成果の概略 .....	18
2 遺構と遺物 .....	18
3 小結 .....	22
第5章 まとめ .....	23

## 挿図目次

第1図 河内長野市遺跡分布図 (S=1/40,000) .....	3
第2図 調査区位置図 (S=1/2,500) .....	5
第3図 TGS07-1 遺構図 (S=1/250) .....	7
第4図 TGS07-1 土層断面図 (S=1/75) .....	8
第5図 TGS07-1 SK01・SB01 遺構実測図 (S=1/50) .....	9
第6図 TGS07-1 遺物実測図1 (SD01) (S=1/4) .....	10
第7図 TGS07-1 遺物実測図2 (SD01) (S=1/4) .....	11
第8図 TGS07-1 遺物実測図3 (SD01) (S=1/4) .....	12
第9図 TGS07-1 遺物実測図4 (調査区南側) (S=1/4) .....	13
第10図 TGS07-1 遺物実測図5 (調査区北側・中央) (S=1/4) .....	14
第11図 TGS09-1 遺構図 (S=1/250) .....	18
第12図 高向神社南遺跡遺構全体図 .....	19
第13図 TGS09-1 土層断面図 (S=1/50) .....	20
第14図 TGS09-1 SK02 遺構実測図 (S=1/20) .....	21
第15図 TGS09-1 SY01 遺構実測図 (S=1/40) .....	22

## 表 目 次

第1表 河内長野市遺跡地名表 .....	4
第2表 TGS07-1 遺物観察表1 .....	15
第3表 TGS07-1 遺物観察表2 .....	16
第4表 TGS07-1 遺物観察表3 .....	17
第5表 TGS09-1 遺物観察表 .....	22

## 図 版 目 次

図版 1 高向神社南遺跡航空写真	
航空写真（北東より）	
航空写真（西より）	
図版 2 高向神社南遺跡調査区全景	
平成19年度調査区全景	
平成21年度調査区全景	
図版 3 高向神社南遺跡（平成21年度）	
木炭窯土層断面（北より）	
木炭窯完掘状況（北西より）	
図版 4 高向神社南遺跡（平成19年度）	
調査区全景（航空写真）	
調査区全景（北東より）	
図版 5 高向神社南遺跡（平成19年度）	
SD01（南西より）	
SD01（北東より）	
図版 6 高向神社南遺跡（平成19年度）	
SB01（北西より）	
SK01（北西より）	
図版 7 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物 1	
図版 8 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物 2	
図版 9 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物 3	
図版10 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物 4	

図版11 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物 5

図版12 高向神社南遺跡（平成21年度）

遺構検出状況（南西より）

調査区全景（航空写真）

図版13 高向神社南遺跡（平成21年度）

上層断面（北西より）

NV01（南西より）

図版14 高向神社南遺跡（平成21年度）

SD01（西より）

SD02（東より）

図版15 高向神社南遺跡（平成21年度）

SK02（南東より）

SY01検出状況（北より）

図版16 高向神社南遺跡（平成21年度）

SY01完掘状況（北東より）

SY01完掘状況（南西より）

図版17 高向神社南遺跡（平成21年度）

SY01断面（南東より）

出土遺物

## 第1章 位置と環境

### 1 地理的環境

河内長野市は南河内では最も南に位置し、石川流域においては、最上流部を占めている。旧国では河内にあたるが、東は大和、南は紀伊、西は和泉に接する。市域には、天見川、石川が南北に流れおり、市域北部で両河川が合流する。市内の大部分が丘陵と河岸段丘であり可耕地はすくないが、交通の要衝であり特に中世以降は高野街道の発達とともに栄えてきた場所である。

当該遺跡は、市内のほぼ中央にあり、石川の河岸段丘上に立地する。当該遺跡の東側には金剛山の西斜面である丘陵部が広がっており、西側の天見川西岸も岩湧山から派生する丘陵もしくは台地となっている。また、南側には、和泉山脈が広がっており、遺跡は天見川流域の低位・中位段丘が続く北側を除いて丘陵に囲まれている。

### 2 歴史的環境

河内長野市域において、人間の生活の痕跡が確認できるのは、旧石器時代に遡る。旧石器時代の遺跡は、石川流域に高向遺跡・上原遺跡が、天見川流域に三日市遺跡が所在し、市内北西部にある小山田丘陵には寺ヶ池遺跡が所在している。三日市遺跡では181点にのぼる剥片、石核、石器が出土している。石器はナイフ形石器、尖頭器、削器、楔形石器が出土している。高向遺跡ではナイフ形石器、有舌尖頭器が出土しており、寺ヶ池遺跡では、有舌尖頭器が採集されている。

縄文時代になると遺跡の数は増加する。三日市遺跡・小塙遺跡では早期の土器、塙谷遺跡では早期の石器が出土している。高向遺跡からは前期の土器が出土している。縄文時代中期の遺跡ではの三日市遺跡や石川流域に位置する宮山遺跡がある。遺構の検出例としては、三日市遺跡で2基の土坑が、宮山遺跡で竪穴住居跡が検出されている。縄文時代後期・晩期には三日市遺跡で中津式土器、滋賀單口式土器、船橋式土器が出土しており、石川流域の向野遺跡、喜多町遺跡でも後期とみられる縄文土器が出土している。この他にも、菱子尻遺跡で縄文時代の石器が出土しており、寺ヶ池遺跡では縄文時代の石器が表採されている。

弥生時代前期は、三日市北遺跡において、様式の弥生土器が出土している。弥生時代中期は、三日市北遺跡において、竪穴住居や溝などの集落に伴う多数の遺構が検出されている。

古墳時代前期には、全長50mの前方後円墳である大師山古墳が出現する。大師山古墳は天見川と石見川が合流する地点の東側の丘陵上に位置し、当該地域の首長墓と考えられる。大師山古墳は戦前と戦後の2度にわたって発掘調査が行われており、内行花文鏡1面、管玉8~9個、鉢形石1個、車輪石15~16個、石釧16~17個、筋錘車4個、刀子1口、鉄劍三口以上、埴輪が出土している。主体部は粘土構であったと推定されている。

古墳時代前期の集落遺跡としては三日市遺跡があり、竪穴住居6棟、土壙墓2基が検出されてい

る。三日市遺跡は、石川東岸の低位～中位段丘上に立地しており、大師山古墳に隣接している。弥生時代から古墳時代にかけては、三日市北遺跡（弥生中期）→大師山遺跡（弥生後期）→三日市北遺跡（庄内期）→三日市遺跡（古墳時代）と、比較的近接した場所で居住域を移動させていったことがわかる。

古墳時代中期にはいっても市内では大型の古墳は確認されていない。市内で確認されている中期古墳は方形低墳丘墳であり、三日市遺跡から4基の古墳が検出されている。

古墳時代中期の集落としては、三日市遺跡が古墳時代前期から引き続いて存続しており、竪穴住居8棟と掘立柱建物2棟が検出されている。

古墳時代後期には、三日市遺跡で検出された三日市古墳群が後期群集墳として位置づける事が可能である。市内菊水町には、五ノ木古墳がかつて位置しており、双子塚古墳、法師塚古墳等の古墳伝承地がある。また、喜多町には烏帽子形古墳、大日寺古墳が単独で存在している。

当該時期の集落は、古墳時代中期まで当該地域の中核的役割を担ったと考えられる三日市北遺跡が引き続き営まれるが、石川西岸の高位段丘上に、小塙遺跡、加塙遺跡、尾崎遺跡、尾崎北遺跡、西浦遺跡などの新しい集落群が展開するようになる。これらの集落群の他にも、高向遺跡、喜多町遺跡、野間里遺跡、向野遺跡などがあり、広範囲にわたって集落が拡散する傾向が認められる。また、集落遺跡の他に小山田丘陵では火葬墓が、小山田丘陵の長池窯跡群、石川流域河岸段丘上の日野観音寺遺跡、石見川流域の寺元遺跡では炭焼窯が検出されている。

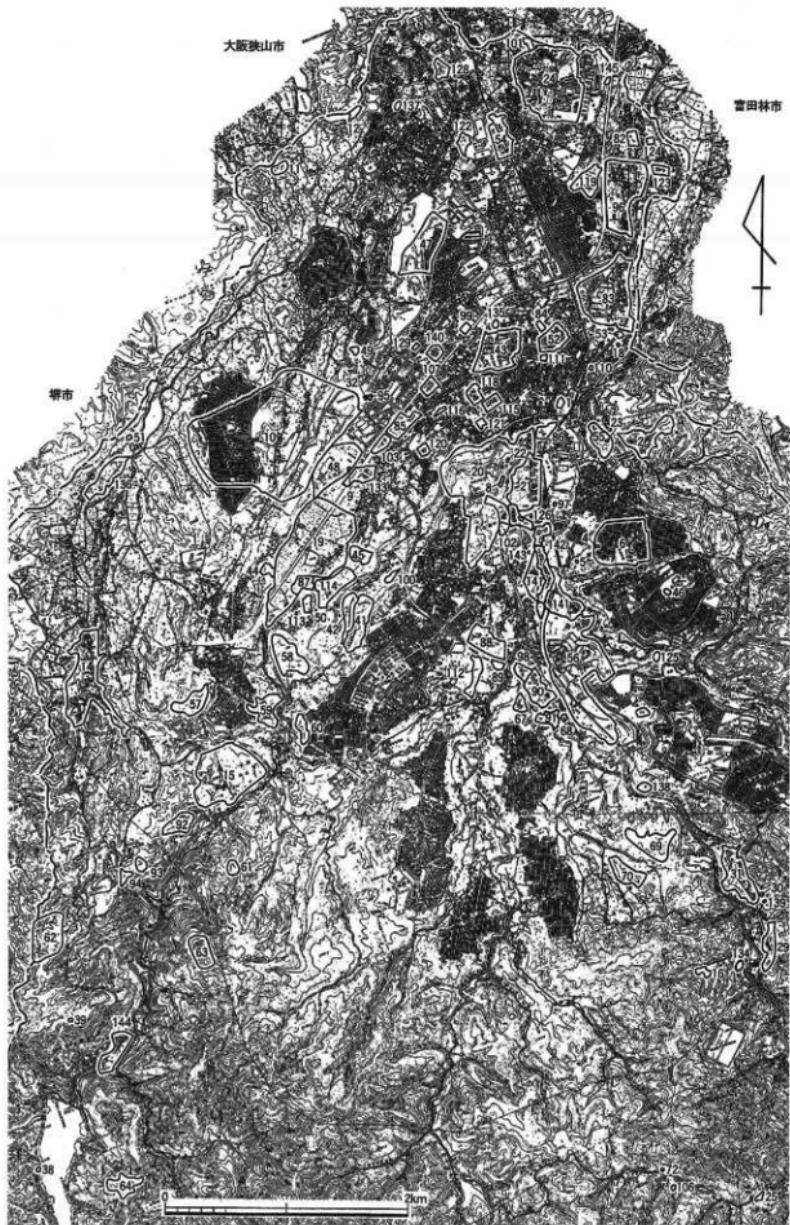
中世には、市内の遺跡は急増する。これは高野街道の発展と金剛寺や觀心寺の中興が大きく影響していると思われる。

集落遺跡では、三日市遺跡、高向遺跡、尾崎遺跡、上原北遺跡、向野遺跡、野作遺跡、市町西遺跡、大日寺遺跡の調査で比較的広い面積からまとまった量の遺構が検出されている。この内、三日市遺跡では当時の集落域と墓域が検出されており、同様の状況は大日寺でも見ることができる。また、向野遺跡や野作遺跡ではフイゴの羽口、鉄滓、鑄型の破片が検出されており、鉄物・鍛冶関係の工房跡と見られている。また、上原北遺跡では、炭焼窯群と建物跡が近接した場所から検出されている。

城館では烏帽子形城跡が発掘調査されている。主郭に相当すると考えられる郭から瓦葺建物跡が検出されており、土師質皿、瀬戸美濃の天目茶碗、瓦が出土している。

寺院関連の遺跡では、天野山金剛寺遺跡、觀心寺遺跡などの発掘調査でまとまった成果があげられている。觀心寺遺跡では、窯、谷状地形、石垣、杭列等を検出しており、谷状地形からは、平安時代～鎌倉時代にかけての遺物が出土している。また、觀心寺遺跡に隣接する寺元遺跡では、塔頭や寺領である寺元の村落の一部と考えられる遺構群を検出している。天野山金剛寺遺跡では、建物跡、中世墓群、井戸、土釜埋納遺構等が検出されており、主に13世紀以降の遺物が出土している。

（島津）



第1図 河内長野市遺跡分布図 (S=1/40,000)

番号	文化財名称	種類	時代	番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町以降	(75)	尾澤墓	城郭	中世
2	河合寺遺跡	社寺	平安以降	(76)	大沢墓	墓	中世
3	鏡心寺遺跡	社寺	平安以降	(77)	三箇山城跡	城壁	平安以降
4	大熊山古墳	古墳	古墳(後期)	(78)	光海寺遺跡	社寺	中世以降
5	大藤山南古墳	古墳?	古墳(後期)	(79)	猪子城跡	城壁	中世
6	大熊山遺跡	墓葬・生落	角生(後期)・平安	(80)	蟹井洞神社遺跡	社寺	中世以前
7	興福寺遺跡	社寺	中世以降	(81)	川上神社遺跡	社寺	中世以前
8	鳥帽子形八幡神社遺跡	社寺	室町以降	(82)	千代田神社遺跡	社寺	中世以前
9	塚穴古墳	古墳	古墳(後期)・近世	(83)	向野遺跡	集落・生落	鶴文・平安～近世
10	高瀬寺跡群	生落	平安～近世	(84)	古野町遺跡	散布地	中世
11	小山田1号古墳	墓葬	奈良	(85)	上原北遺跡	集落	中世
12	小山田2号古墳	墓葬	奈良	(86)	大日寺遺跡	社寺・塔跡・墓	律生～中世
13	延命寺遺跡	社寺	平安以降	(87)	高向南遺跡	散布地	鎌倉
14	天野山金剛寺遺跡	寺塔・頃塚	平安以降	(88)	小塙遺跡	集落	鶴文・奈良
15	日野觀音寺遺跡	社寺・生落	平安～中世	(89)	加塙遺跡	集落	古墳(後期)
16	猪俣寺遺跡	社寺	室町以降	(90)	尾崎遺跡	集落	吉生～中世
(17)	若狭房寺遺跡	社寺	中世以降	(91)	ジョウノマエ遺跡	城壁?	中世
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)	(92)	仁王山城跡	城壁	中世
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世	(93)	タコラ城跡	城跡	中世
20	鳥帽子形遺跡	城壁・生落	中世～近世	(94)	立城跡	城跡	中世
21	喜多町遺跡	集落	鶴文・古墳～中世	(95)	上原近世遺跡	生落	近世
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)	(96)	市町東遺跡	散布地	律生・中世
23	末広遺跡	生落	中世	(97)	上田町宝跡	生落	近世
24	塙谷遺跡	散布地	鶴文～近世	(98)	尾崎北遺跡	集落	古墳～中世
25	波谷八幡神社	社寺	平安以降	(99)	西之山町遺跡	散布地	中世
26	磐井源南遺跡	散布地	中世	(100)	野間里遺跡	集落	平安
27	磐井源北遺跡	散布地	中世	(101)	猪尾遺跡	散布地	中世
28	荒見駅北方遺跡	散布地	中世	(102)	上田町遺跡	散布地	吉生・中世
29	手草口駅南遺跡	社寺	中世	(103)	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
30	磐梯新居寺遺跡	社寺	室町以降	(104)	小野塙遺跡	集落	中世
31	清水遺跡	散布地	中世	(105)	越前城17級塔	經塔	平安以降
32	佐伊良鹿古墳	古墳?	近世	(106)	美請堂跡	社寺	中世以降
(33)	安井藏堂寺	社寺	近世	(107)	野作遺跡	生落	中世
(34)	瀧湖堆	墓葬	近世	(108)	寺元遺跡	集落・社寺	寧生・中世
(35)	中村阿保尼堂寺	社寺	近世	(109)	鳴原遺跡	散布地	中世
(36)	東の村麿音堂寺	社寺	近世	(110)	波箭原古墳	古墳	古墳
(37)	西の村麿音堂寺	社寺	近世	(111)	山上謹山古墳跡	古墳	古墳
38	清木御井堂寺	社寺	近世	(112)	西之浦遺跡	集落	古墳・中世・近世
39	海老井堂寺	社寺	近世	(113)	池保寺跡	社寺	近世
(40)	宮の下内塚	墓葬	古墳	(114)	宮の下遺跡	集落	平安～中世
41	宮山古墳	古墳	古墳	(115)	安町遺跡	散布地	鶴文・古墳・中世
42	宮山遺跡	集落	鶴文・高桑	(116)	綱町遺跡	散布地	中世
43	西代舞陣塙跡	散布地・城跡	飛鳥～奈良江戸	(117)	太井遺跡	散布地	鶴文・中世
44	上栗町栗地	地盤	近世	(118)	綱町北遺跡	集落	鶴生・中世・近世
45	慾神寺跡	散布地・社寺	鶴文・奈良・律生	(119)	市町西遺跡	集落	鶴文・中世
46	篠山遺跡	散布地	中世～近世	(120)	安町南遺跡	集落	中世
47	寺ヶ池遺跡	散布地	鶴文	(121)	安町東遺跡	散布地	鶴生・中世
48	上栗遺跡	散布地	旧石器～近世	(122)	猪町東遺跡	散布地	鶴生
49	佐吉神社遺跡	社寺	近世以降	(123)	沙の宮町南遺跡	散布地	鶴生・奈良
50	高野神社遺跡	社寺	中世以降	(124)	沙の宮町東遺跡	散布地	中世
51	青井鬼神社遺跡	社寺	中世以降	(125)	神方丘近世墓	墳墓	近世
52	施所満代官所跡	城跡	江戸	(126)	猪町鬼寺	寺	中世以降
53	双子塚古墳	古墳	古墳	(127)	三味城遺跡	城跡・城跡	中世・近世
54	茅子瓦塚	散布地・社寺	鶴文～近世	(128)	絆林寺遺跡	社寺	近世以降
55	河合寺跡	城跡	中世	(129)	猪矢町遺跡	散布地	中世
56	三日市遺跡	城跡	高麗・古墳跡	(130)	東高野街道	街道	平安以降
57	日の各城跡	城跡	中世	(131)	西高野街道	街道	平安以降
58	高木遺跡	散布地	鶴文	(132)	高野町遺跡	街道	平安以降
59	沙の山城跡	城跡	中世	(133)	上原東遺跡	散布地	鶴生・中世・近世
60	篠山城跡	城跡	中世	(134)	越風寺東方遺跡	集落	鶴生
61	高瀬山城跡	城跡	中世	(135)	本多町北遺跡	散布地	中世
62	因見城跡	城跡	中世	(136)	下笠町遺跡	散布地	古墳・中世
63	旗殿城跡	城跡	中世	(137)	あかし山台遺跡	散布地	近世
64	梅見城跡	城跡	中世	(138)	若瀬北遺跡	集落	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	中世以降	(139)	若瀬北墓	墓葬	近世
(66)	葛賀田15綱塔	經塔	平安以降	(140)	福生町東遺跡	地跡	鶴文・中世・近世
67	須賀田神社遺跡	社寺	中世以降	(141)	三日市北遺跡	集落	鶴生・中世
68	度中神社	社寺	近世以降	(142)	三日市宿	宿場	宿場に伴う施設
69	石仏城跡	城跡	中世	(143)	上町塔跡	塔	宿場に伴う施設
70	佐近城跡	城跡	中世	(144)	浪尻遺跡	散布地	鶴文・古墳・中世
71	喜尻城跡	城跡	中世	(145)	市町北遺跡	散布地	中世
72	喜尻第1・5綱塔	經塔	平安以降	(146)	太白遺跡	散布地	中世
(73)	喜尻第1・8綱塔	經塔	平安以降	(147)	高向神社遺跡	集落	古墳
74	喜尻第1・9綱塔	經塔	平安以降	(148)	岸遺跡	散布地	鶴生・古墳・中世

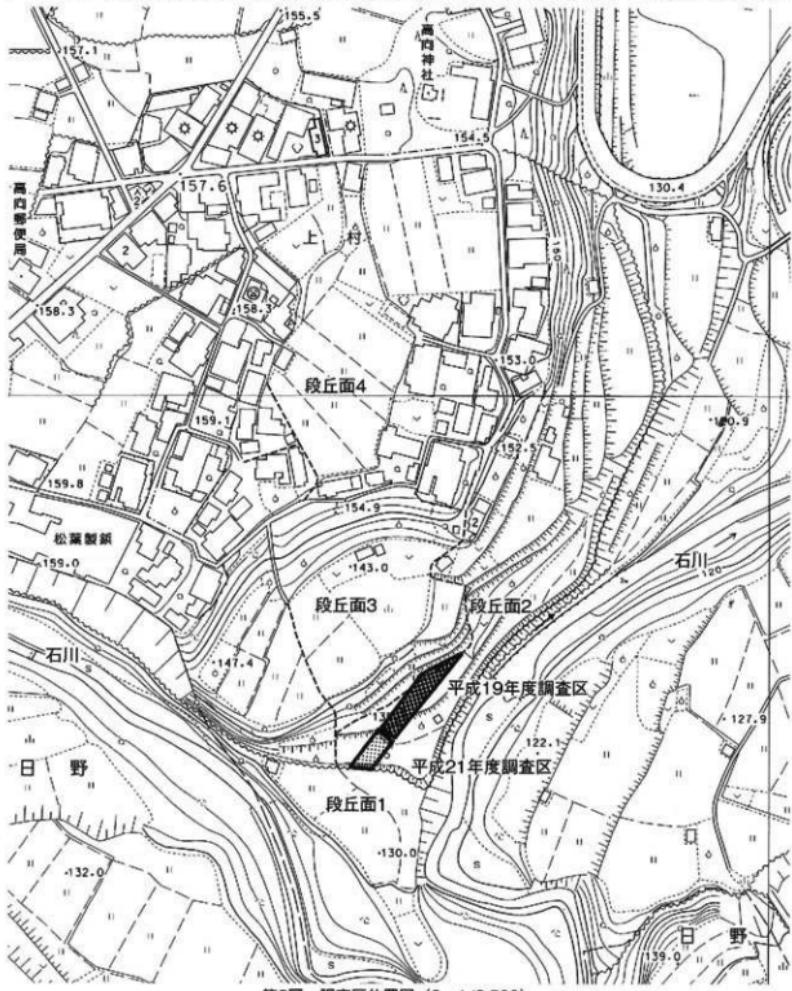
（ ）は未開闢跡外

\*は審査にさきプロットせず

第1表 河内長野市遺跡地名表

## 第2章 調査に至る経過

高向神社南遺跡は河内長野市高向に所在する遺跡で、石川の下刻が形成した狭長な河岸段丘面に立地する。本遺跡の所在する高向地区は対岸の高木地区とともに、周知の遺跡は知られていないかったが、府営農村振興整備総合事業「河内長野和泉地区」に係わる圃場整備が実施されることになった。本府農林環境部南河内農と緑の総合事務所と協議を重ねた結果、平成15年11月に試掘



調査に入った。

石川の曲流が谷を刻む高向地区は、4段の段丘面がある。標高150～160mの段丘面4は高向神社が鎮座する平坦面であり、神社の西方には整然とならぶ奈良時代の建物群が見つかった高向遺跡が広がる。古代豪族の高向氏の本拠地と目されている。圃場整備対象地はこの段丘面4の下、段丘面1～3にあたり、段丘面2には農道が新設されることになった。

試掘調査は段丘面2・3にそれぞれ2箇所のトレーンチを設置し、遺構・遺物の有無を確認した。試掘調査の結果、段丘面3からは遺構・遺物は検出されなかったが、段丘面2からは礫層をベースとする落ち込みとピットが検出され、土師器、須恵器が出土した。

ただし段丘面1と段丘面2の南端部は、試掘トレーンチが設定できず、改めて試掘調査を実施し、調査範囲を決めることになった。この段階で、圃場整備計画をもとに協議した結果、調査対象地は地下遺構に影響を与える農道新設箇所に限定されることになった。

未調査箇所の試掘調査は、平成18年度に実施した。試掘トレーンチは段丘面1に2箇所、段丘面2南端に1箇所設置した。段丘面1は遺構・遺物が未検出であったが、段丘面2からは平成15年度の試掘結果に類似するピット群や遺物を検出し、高向地区の段丘面2の河岸段丘面に古代の遺構が広がっていることが明らかになった。

この新規発見の遺跡は、高向神社の南に位置するので、高向神社南遺跡と命名され周知されることになった。遺跡範囲の確定にともない、道路新設部の調査範囲も確定した。

本調査は平成19年度と平成21年度の2次にわたり実施した。調査に際して、平成19年10月11日付で本府教育委員会と河内長野市教育委員会は「高向神社南遺跡発掘調査に関する協定書」を締結した。現地調査は府市共同で実施し、遺物整理は主に河内長野市教育委員会が河内長野市立ふれあい考古館でおこなった。

(小山田)

### 第3章 平成19年度の調査(TGS07-1)

#### 第1節 調査の結果

##### 1 調査成果の概略

当遺跡は、当該整備事業に先立ち、平成15年度の高向・高木地区の試掘調査で新規発見されたものである。今次の調査は、農道新設部分にかかる470mについて平成19年11月4日から12月29日に調査を実施した。調査区は、石川が蛇行しながら日野との境の潮瀬と呼ばれる狹小な河谷を抜けて北流する左岸の段丘面上標高135mに位置する。

層序は基本的に耕土（層厚約0.2m）、床土（層厚約0.05m）を除去すると玉石（最大 $150 \times 100 \times 50$ ）が50%以上混じる褐色粘土層（層厚約0.4m）、その下層に黒褐色粘土層（層厚約0.2m）、更に暗オリーブ褐色粘土に玉石（最大 $50 \times 30 \times 20$ ）が混じる層（層厚約0.2m）、そして地山となる層順が基本層序となる。

このうち、玉石が混じる褐色粘土層に中世土器が包含し、黒褐色粘土に古墳時代の須恵器、土師器が包含されていた。このことから検出された遺構の時代は、中世と古墳時代に大別される。

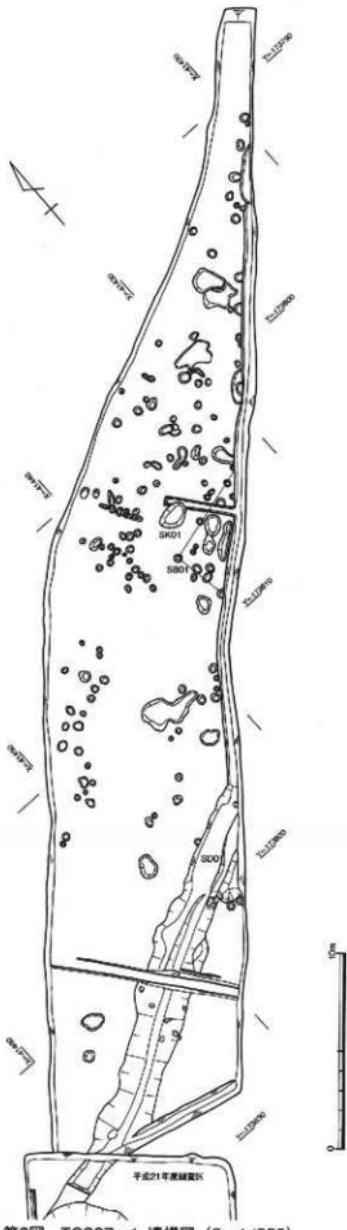
中世では溝状遺構、古墳時代の遺構は明瞭さを欠くが、掘立柱建物1棟とピットと土坑状の遺構を検出した。

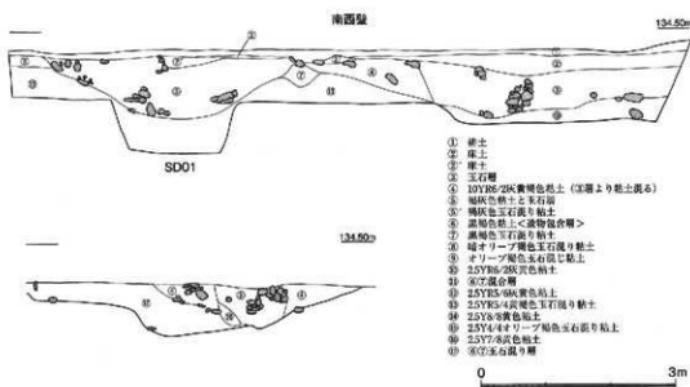
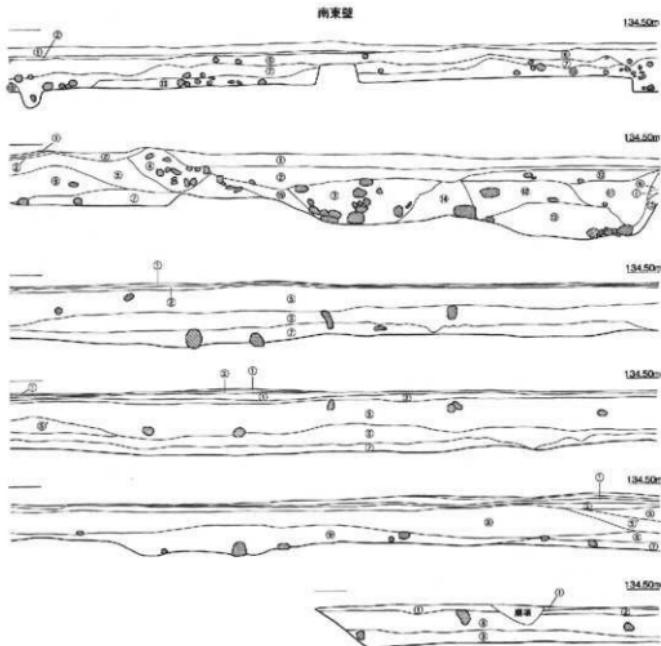
##### 2 遺構と遺物

###### 溝

< S D O 1 > (第6図～第8図)

中世の遺構は、調査区の南東側をN-60° -





第4図 TGS07-1 土層断面図 (S=1/75)

Eの方向で直線的に走る溝が検出された。

溝の検出長は約20mでいずれの両端も調査区外に延びる。溝の幅は上端で最大3m、下端で0.3m、最深0.8mを計った。溝は埋没する過程で幅0.8m、深さ0.4mの暗渠として再利用され、内部には最大300mm×200mm×200mmの玉石が充填されていた。

出土遺物は古墳時代の土師器も混入しているが、主は中世土器である。中世土器には土師質土器類、瓦質土器類が出土し、以下のものが図示できた。

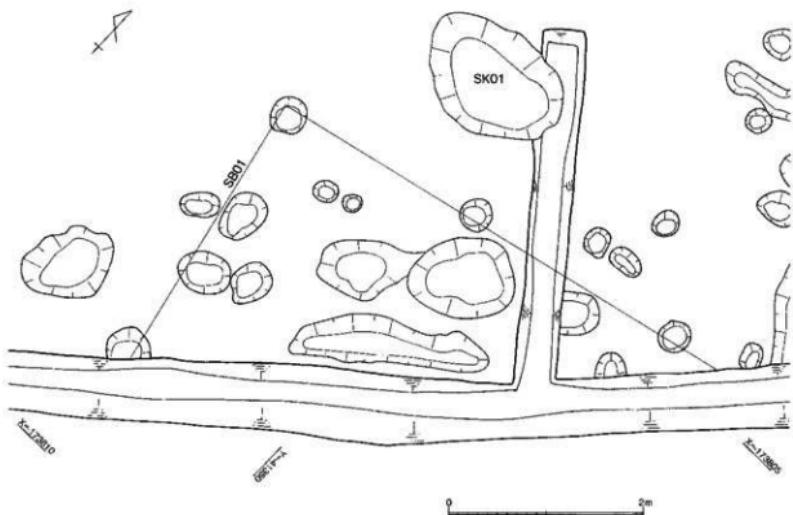
土師質土器では壺類は両耳付直口壺（31）と直口壺（33）があり、2点とも肩部に線刻があり煤が付着している。壺（30）は玉縁口縁をもち外面タタキを有する。瓦質土器では土釜（25、29、32、34～41）があり体部外面はヘラケズリ、内部ハケメが施されている。また鉢類では捕鉢（23、26、28、42）が図示できた。外面体部ヘラケズリ、内面ハケメのうえにスリメを施している。壺（27）は玉縁口縁をもち外面タタキを有する。

#### 建物

<SB01>

据立柱建物は、調査区中央南東辺で検出した。主軸方向はN-13°-Wを示す。東西1間（2.8m）、南北2間（4.5m）以上の規模が検出され、調査区外に広がる。南北の柱間は北から2.3m、2.2mを測り、柱穴は平均直径0.3m、深さ0.1mを測る。

図示可能な遺物は出土しなかった。



第5図 TGS07-1 SK01・SB01 遺構実測図 (S=1/50)

## 土坑

### <SK01>

S B 0 1 の西側1mに位置する。平面形は不整な橢円形を呈する。主軸方向はN-1°-Wを示す。規模は長軸1.6m、短軸1.1m、深さ0.25mを図る。

埋土中には、炭化物が包含されていた。また遺物は、土師器、須恵器片が出土したが、図示可能なものはなかった。

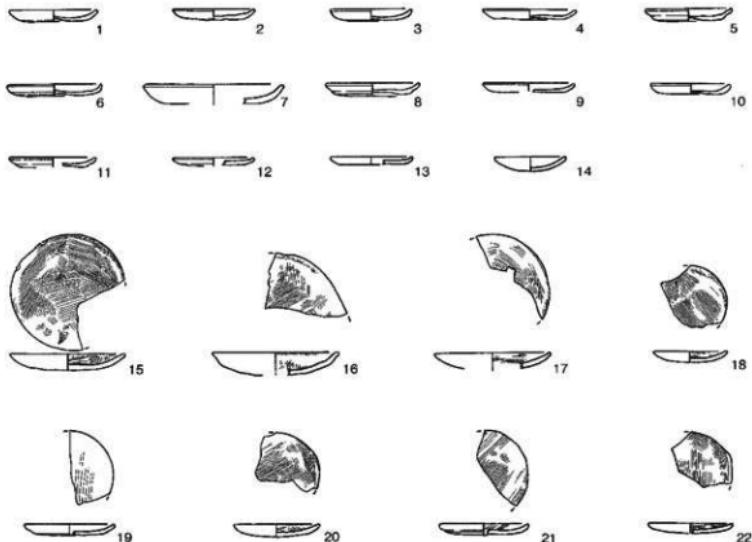
### 包含層出土遺物

包含層の出土遺物は、調査区内の出土地から北側・中央部と南側とに区分した。

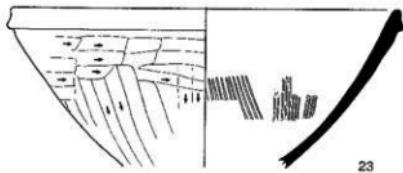
#### <南側>（第9図）

当該地区の出土遺物は、古墳時代の須恵器、土師器も混入しているが、主は中世土器である。中世土器には陶器類、土師質土器類、瓦質土器類が出土し、以下のものが図示できた。

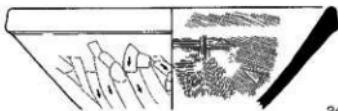
陶器では備前焼壺口縁（43）が一点だけ図示できた。土師質土器では壺類として肩部に線刻が施された茶釜（45）がある。皿（54）は内面ハケメを有する。瓦質土器では土釜（44,46,47,49）があり体部外面はヘラケズリ、内部ハケメが施されている。また鉢類では播鉢（48,50,51）が図示できた。外面体部ヘラケズリ、内面ハケメのうえにスリメを施している。この内（51）は片口



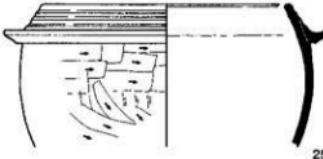
第6図 TGS07-1 遺物実測図1 (SD01)



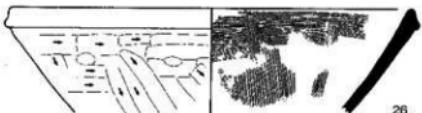
23



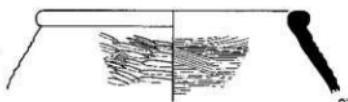
24



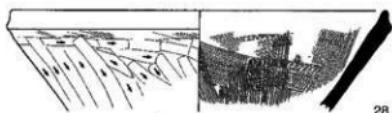
25



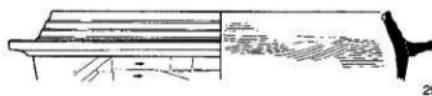
26



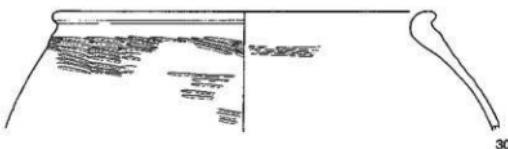
27



28



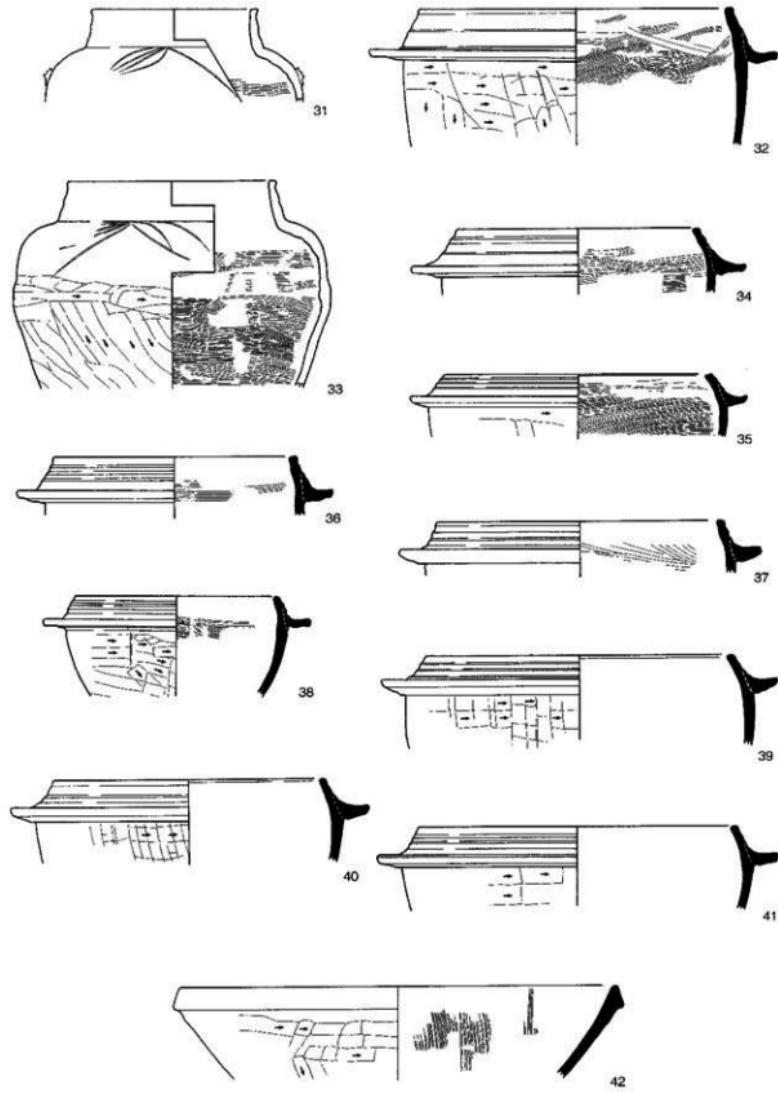
29



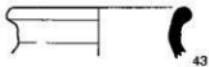
30

0 20cm

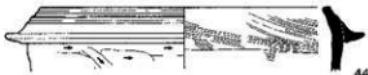
第7図 TGS07-1 遺物実測図2 (SD01)



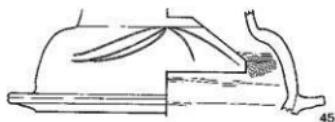
第8図 TGS07-1 遺跡実測図3 (SD01)



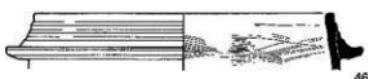
43



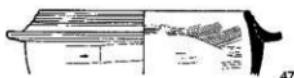
44



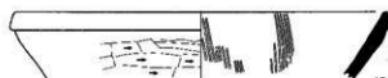
45



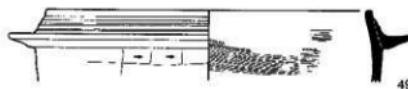
46



47



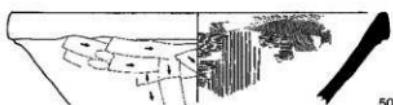
48



49



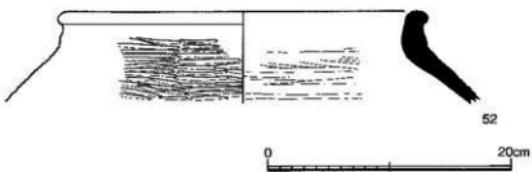
50



51



52



53



54

0 20cm

第9図 TGS07-1 遺物実測図 4 (調査区南側)

擂鉢である。甕(52)は玉縁口縁をもち外面タタキを有する。

また、古墳時代土師器高杯脚部(53)も出土した。

#### <北側・中央部> (第10図)

当該地区から出土した遺物の大半は、古墳時代後期の土師器・須恵器の破片であった。一部、中世土器も出土した。図示できたのは古墳時代では須恵器杯身(58,60)・蓋(59)、甕(61、62)、土師器甕(63)である。中世土器では瓦質土器擂鉢(56)、土師質擂鉢(57)である。

### 3 小結

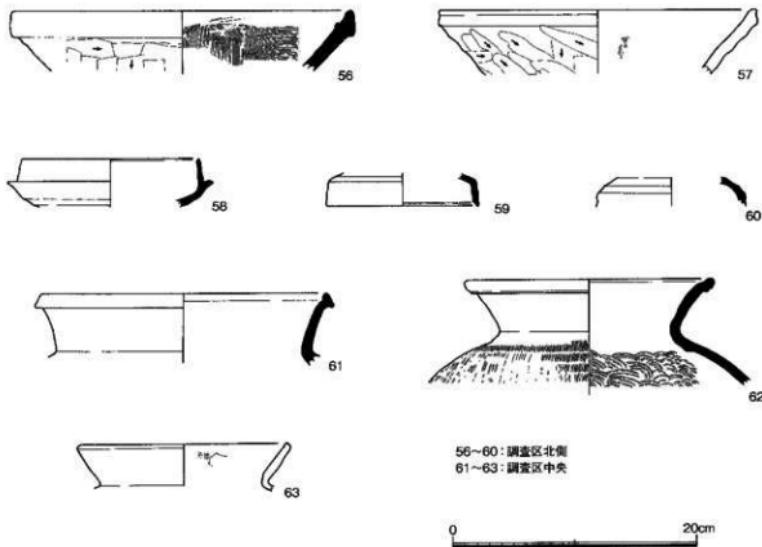
今次の調査で検出された遺構は古墳時代と中世に大別できる。

古墳時代では、掘建柱建物1と土坑1を復元した。しかし、調査区に中央部から北側からはピットが集中して検出したことから、他の建物の存在も予想される。時期的には出土した須恵器から6世紀前半ころの曆年代が考えられる。

一方、中世は直線的に走る溝が検出されたが、この位置は石川に突き出た尾根を横断するようには掘削されていることから、非常に計画的に掘削された溝であると考えられる。時代は出土土器から15世紀代後半の曆年代が考えられる。

いずれにしても、当該遺跡の状況は、石川の左岸、中位段丘から低位段丘にかけての狭小な段丘面にあり、居住空間としては不適切な場所である。このことから、遺跡の性格判断は慎重を要する。

(尾谷)



第10図 TGS07-1 遺跡実測図5 (調査区北側・中央)

測定番号	遺構名	種別	断面形	高さ (cm)	幅さ (cm)	保存率 (%)	古調		外觀調整	内部観察	地成	土成	備考
							外側	内側					
1 SD01	土師質土器	皿	-(7.1)	0.9	50	外側: 7.5YR7/6褐色 内側: 7.5YR7/4(2)少し褐色 厚さ: 7.5YR7/6褐色	口縁部: ヨコナデ 底部: ナデ	口縁部: ヨコナデ 底部: ナデ	良好	良			
2 SD01	土師質土器	皿	-(6.6)	0.9	60	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR6/6褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ナデ 底部: ナデ	良好	良			
3 SD01	土師質土器	皿	-(6.4)	0.8	45	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR6/6褐色	口縁部: ヨコナデ 底部: ユビオサエ 工程: ヨコナデ	口縁部: ヨコナデ 底部: ナデ	良好	良			
4 SD01	土師質土器	皿	-(7.8)	0.8	55	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR7/4(2)少し褐色	口縁部: ヨコナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ヨコナデ 底部: ユビオサエ後工程	良好	良			
5 SD01	土師質土器	皿	-(7.0)	1.0	50	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR6/6褐色	口縁部: ヨコナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ヨコナデ 底部: ナデ	良好	良			
6 SD01	土師質土器	皿	-(7.6)	1.0	50	外側: 7.5YR7/6褐色 内側: 7.5YR7/6褐色 厚さ: 7.5YR7/6褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ナデ 底部: ユビオサエ後工程	良好	良			
7 SD01	瓦器	皿	-(11.2)	1.6	20	外側: 2.5YR7/2灰褐色 内側: 2.5YR7/2灰白色 厚さ: 2.5YR7/2灰白色	口縁部: ヨコナデ	口縁部: ヨコナデ 底部: ナデ	良好	良			
8 SD01	土師質土器	皿	-(7.4)	1.1	45	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR6/6褐色	口縁部: ヨコナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ヨコナデ 底部: ハケメ	良好	良			
9 SD01	土師質土器	皿	-(7.4)	0.8	30	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR6/6褐色	口縁部: ヨコナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ヨコナデ 底部: ナデ	良好	良			
10 SD01	土師質土器	皿	-(6.6)	0.8	45	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR6/6褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ナデ 底部: ハケメ	良好	良			
11 SD01	土師質土器	皿	-(7.0)	0.8	48	外側: 10YR7/4(2)に少し黄褐色 内側: 7.5YR7/4(2)に少し黄褐色 厚さ: 10YR7/4(2)に少し黄褐色	口縁部: ヨコナデ 底部: ユビオサエ後工程	口縁部: ヨコナデ 底部: ナデ	良好	良			
12 SD01	土師質土器	皿	-(6.6)	0.7	30	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR6/6褐色	口縁部: ヨコナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ヨコナデ 底部: ナデ	良好	良			
13 SD01	土師質土器	皿	-(6.7)	0.6	15	外側: 10YR7/4(2)に少し黄褐色 内側: 10YR7/4(2)に少し黄褐色 厚さ: 10YR7/4(2)に少し黄褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ナデ 底部: ナデ	良好	良			
14 SD01	土師質土器	皿	-(5.8)	1.2	20	外側: 7.5YR6/6褐色 内側: 7.5YR6/6褐色 厚さ: 7.5YR6/6褐色	口縁部: ナデ	口縁部: ナデ 底部: ナデ	良好	良			
15 SD01	瓦器	皿	-(9.4)	1.4	75	外側: 2.5YR7/2灰白色 内側: 2.5YR7/2灰白色 厚さ: 2.5YR7/2灰白色	口縁部: ナデ 底部: ユビナデ	口縁部: ナデ 底部: ユビナデハケメ	良好	良	口縁部: N4/0灰色		
16 SD01	瓦器	皿	-(10.3)	1.9	25	外側: 10YR7/4灰白色 内側: 2.5Y7/3浅灰色 厚さ: 10YR7/4灰白色	口縁部: ナデ 底部: ユビオサエ	口縁部: ナデ 底部: ナデハケメ	良好	良	口縁部: N4/0灰色		
17 SD01	瓦器	皿	-(9.4)	1.3	20	外側: 5YR7/2灰白色 内側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 厚さ: 10YR7/4灰白色	口縁部: ナデ 底部: ユビナデ	口縁部: ナデ 底部: ナデハケメ	良好	良	口縁部: 10YR4/1灰色		
18 SD01	土師質土器	皿	-(6.0)	0.9	50	外側: 7.5YR6/6に少し黄褐色 内側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 厚さ: 7.5YR6/4に少し黄褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビナデ	口縁部: ナデ 底部: ナデハケメ	良好	良			
19 SD01	土師質土器	皿	-(7.2)	0.9	40	外側: 10YR7/3に少し黄褐色 内側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 厚さ: 10YR7/3に少し黄褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビナデ	口縁部: ナデ 底部: ナデハケメ	良好	良			
20 SD01	土師質土器	皿	-(7.0)	1.1	40	外側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 内側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 厚さ: 7.5YR6/4に少し黄褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビナデ	口縁部: ナデ 底部: ナデハケメ	良好	良			
21 SD01	土師質土器	皿	-(7.2)	0.9	40	外側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 内側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 厚さ: 7.5YR6/4に少し黄褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビナデ	口縁部: ナデ 底部: ナデハケメ	良好	良			
22 SD01	土師質土器	皿	-(6.8)	0.9	30	外側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 内側: 7.5YR6/4に少し黄褐色 厚さ: 7.5YR6/4に少し黄褐色	口縁部: ナデ 底部: ユビナデ	口縁部: ナデ 底部: ナデハケメ	良好	良			
23 SD01	瓦質土器	底盤	-(31.6)	14.1	15	外側: 10YR6/3に少し黄褐色 7.5YR4/4灰白色 内側: 10YR6/3に少し黄褐色 厚さ: 10YR6/3に少し黄褐色	口縁部: ナデ 体側: ラケスリ	口縁部: ナデ 体側: ハケメ	不良	良			
24 SD01	瓦質土器	こね跡	-(26.4)	8.3	15	外側: 10YR6/3に少し黄褐色 7.5YR4/4灰白色 内側: 10YR6/3に少し黄褐色 厚さ: 10YR6/3に少し黄褐色	口縁部: ナデ 体側: ナデハケスリ	口縁部: ナデ 体側: ハケメ	良好	良			

第2表 TGS07-1 遺跡検索表1

遺物 番号	遺 物 名	種 別	跡形	口形・底形 (mm)	深 度 (cm)	残存率 (%)	色 調	外表面	内面観察	地 点	地 土	備 考
25	SDD1	瓦質土器	円筒	(20.3) (脚部26.7)	後11.7	20	外壁:7.5YR1/1灰色、 2.5YR1/2灰褐色 内面: 2.5YR1/2灰褐色、10YR6/2 灰褐色 脚部:5YR1/1灰 色、2.5YR1/3浅褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁~脚部:ナデ	不負	並	
26	SDD1	瓦質土器	棒錐	(32.8)	後8.7	15	外壁:7.5YR1/1灰色、 10YR6/4CJ1/1褐色 内面:7.5YR1/1灰色、 10YR6/3CJ1/1褐色 脚部:10YR6/3CJ1/1青褐 色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリスリメ	並	並	
27	SDD1	瓦質土器	錐	(21.0)	後7.8	5	外壁:10YR5/1CJ1/1青褐 色 内面:10YR6/2灰褐色 脚部:10YR6/2灰褐色	口縁部:ナデ 体部:平 行タキ	口縁部:ナデ 体部:ハ ラメ	並	並	
28	SDD1	瓦質土器	錐	(30.6)	後8.3	20	外壁:5YR1/2灰褐色 内面:10YR1/1灰色、基 部:7.5YR1/1灰色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリスリメ	良好	並	
29	SDD1	瓦質土器	円筒	(27.6) (脚部34.8)	後5.8	5	外壁:5YR1/2灰褐色 内面:2.5YR1/2灰褐色、青 色、5YR6/2灰褐色 脚部:5YR6/2灰褐色 基部:5YR1/1灰色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁部:ナデ 体部:カ ラケズリハケメ	良好	並	
30	SDD1	土師質土器	壺	(30.2)	後9.9	20	外壁:2.5YR1/3灰褐色、青 色、2.5YR1/3浅褐色、粉 色、2.5YR1/3淡褐色、 50Y7/3暗オリーブ色	口縁部:ナデ 体部:平 行タキ	口縁部:ナデ 体部:ハ ラメ	並	並	
31	SDD1	土師質土器	把手 付壺	(13.3)	後7.6	15	外壁:5YR6/4CJ1/1褐色 内面:2.5YR1/1灰褐色、 5YR5/2CJ1/1褐色、脚部: 5YR6/3CJ1/1褐色	口縁~把手部:ナデ	口縁~把手部:ナデ 体 部:ナデ・ハケメ	並	並	脚部あり 把手付
32	SDD1	瓦質土器	羽茎	(25.5) (脚部33.6)	後11.3	40	外壁:2.5YR1/2CJ1/1青 色、2.5YR1/1灰色、青 色、5YR4/1灰褐色、脚 部:5YR6/4CJ1/1褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁部:ナデ後ハケメ 体部:ナデ	並	並	
33	SDD1	土師質土器	壺	(16.6)	後17.0	50	外壁:5YR6/4CJ1/1褐色 内面:2.5YR1/1灰褐色、 5YR6/3CJ1/1褐色、 7.5YR6/3CJ1/1褐色、脚 部:10YR6/3CJ1/1褐色	口縁~柄部:ナデ 体 部:ハラケズリ	口縁~柄部:ナデ 体 部:ナデ後ハケメ後ナデ	並	並	縫合あり
34	SDD1	瓦質土器	羽茎	(19.6) (脚部27.5)	後5.3	10	外壁:10YR2/3暗オリーブ 色、内壁:5YR6/4灰褐色 内面:10YR6/4CJ1/1青 色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁部:ナデ 体部:ナ ラケメ	並	並	
35	SDD1	瓦質土器	羽茎	(21.8) (脚部28.5)	後5.2	10	外壁:N2/1灰褐色、内 面:N2/1灰褐色、脚部: 2.5YR1/3浅黄色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁部:ハケメ後ナデ 体部:ハケメ	良好	並	
36	SDD1	瓦質土器	羽茎	(19.7) (脚部26.0)	後6.1	5	外壁:10YR1/1黑色、内 面:5YR6/4灰褐色 脚部:5YR6/4灰褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁部:ナデ 体部:ナ ラケメ	良好	並	
37	SDD1	瓦質土器	羽茎	(23.4) (脚部29.7)	後6.3	10	外壁:5YR3/3暗オリーブ 色、2.5YR1/1黒褐色、内 面:2.5YR1/2灰褐色、脚 部:5Y7/2灰白色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁部:ナデ 体部:ナ ラケメ	並	並	
38	SDD1	瓦質土器	羽茎	(16.6) (脚部22.0)	後8.3	20	外壁:5YR7/2灰褐色、 2.5YR6/4灰褐色、内 面:2.5YR7/2灰褐色、 10YR6/1褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁部:ナデ 体部:ナ ラケメ後ナデ、ナデ	不負	并	
39	SDD1	瓦質土器	羽茎	(25.0) (脚部32.6)	後7.5	10	外壁:5YR1/2灰褐色、内 面:5Y5/1灰褐色、2.5YR2 堆灰褐色、脚部:5Y7/1灰 色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁~脚部:ナデ	不負	並	
40	SDD1	瓦質土器	羽茎	(22.2) (脚部29.4)	後6.9	10	外壁:5YR1/1灰褐色、内 面:5Y5/1灰褐色、脚部: 2.5Y7/3浅黄色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁~脚部:ナデ	不負	並	
41	SDD1	瓦質土器	羽茎	(25.9) (脚部33.0)	後6.9	10	外壁:5YR1/2暗オリーブ 色、5Y3/1暗オリーブ色 内面:5Y4/1灰褐色、脚部: 10YR6/4CJ1/1灰褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁~脚部:ナデ	不負	並	
42	SDD1	瓦質土器	棒錐	(35.6)	後7.7	10	外壁:5YR1/1灰褐色、 2.5YR6/2褐色、内面: 2.5Y4/1灰褐色、2.5Y5/2 堆灰褐色、脚部:2.5Y7/3 浅黄色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	口縁部:ナデ 体部:ナ ラスリ	不負	並	
43	南側玉石 まじり層	圓錐	壺	(14.3)	後4.2	15	外壁:10YR1/2灰褐色、 2.5YR6/3CJ1/1褐色、内 面:10YR4/2灰褐色、脚 部:2.5YR6/3堆灰褐色、 2.5YR4/1灰褐色	口縁~脚部:凹輪ナデ	口縁~脚部:凸輪ナデ	良好	並	
44	南側玉石 まじり層	瓦質土器	羽茎	(23.6) (脚部29.5)	後6.2	10	外壁:5YR1/1灰褐色、内 面:5Y5/1灰褐色、脚部: 10YR6/3CJ1/1灰褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 脚部:ナデ	口縁部:ナデ 体部:ナ ラスリ	並	並	
45	南側玉石 まじり層	土師質土器	羽茎	—	後6.5	15	外壁:7.5YR1/1灰色、内 面:7.5YR2/2灰白色、脚 部:10YR7/1灰褐色	脚部:ナデ 体部:ナデ	脚部:ナデ 体部:ナデ ハケメ	良好	並	縫合あり 口縁部欠損
46	南側玉石 まじり層	瓦質土器	羽茎	(24.4) (脚部29.3)	後6.6	10	外壁:7.5YR1/1灰色、内 面:2.5YR6/3灰褐色、脚 部:2.5Y7/3灰褐色	口縁部:凹輪ナデ 体 部:ナデ・ハラケズリ 脚 部:ナデ	口縁部:凹輪ナデ 体 部:ナデ・ハラケメ後ナデ	良好	並	

第3表 TGS07-1 遺跡観察表2

地質番号	地塊	種別	岩形	口引・延長 (cm)	標高 (m)	接地面 (%)	色	外観調査	内部調査	結成	駆逐	備考
47	南側玉石 まじり層	瓦質土器	羽状	(17.0) (標幅22.0)	標5.3	10	外縁:SY3/1オーバー黒色 内縁:SY3/1リツアーブル黒色 内底:10YR5/4C-3L-黄褐色 底:10YR5/4C-3L-黄褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 頭部:ナデ テラヘルメ	口縁部:ナデ 体部:ナ テラヘルメ	良好	良	
48	南側玉石 まじり層	瓦質土器	複合	(30.4)	標5.7	5	外縁:10YR5/2赤朱褐色 内縁:10YR5/2赤朱褐色 内底:10YR5/3赤褐色 底:10YR5/4C-3L-黄褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 頭部:ナデ テラヘルメ	口縁部:ナデ 体部:ナ テラヘルメ	不良	良	
49	南側玉石 まじり層	瓦質土器	羽状	(26.5) (標幅33.0)	標5.9	10	外縁:10YR5/2赤朱褐色 内縁:10YR5/3赤褐色 内底:10YR5/4C-3L-黄褐色 底:10YR5/4C-3L-黄褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ 頭部:ナデ テラヘルメ	口縁部:ナデ 体部:ナ テラヘルメ	良好	良	
50	南側玉石 まじり層	瓦質土器	複合	(30.6)	標7.8	10	外縁:7.5Y4/4-灰色 内縁:7.5Y4/1灰白色 内底:10YR5/3C-3L-黄褐色 底:10YR5/4C-3L-黄褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	口縁部:ナデ 体部:ナ テラヘルメ後スリメ	良好	良	
51	南側玉石 まじり層	瓦質土器	複合 (片 口)	(30.4)	標10.8	20	外縁:10YR5/3C-3L-黄褐色 内縁:5/5灰白色 内底:10YR5/4C-3L-黄褐色 底:10YR5/4C-3L-黄褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	不良	良	
52	南側玉石 まじり層	瓦質土器	複合	(26.2)	標7.3	5	外縁:NS5/0赤色 内縁:5/5灰白色 内底:5/5灰白色 底:5/5灰白色	口縁部:ナデ 体部:平 ヨタキ	口縁部:ナデ 体部:ナ テラヘルメ	良好	良	
53	南側玉石 まじり層	土器部	窓仔	-	標7.5	15	外縁:7.5Y4/4C-3L-灰色 内縁:7.5Y4/4C-3L-灰色 内底:10YR5/3C-3L-黄褐色 底:10YR5/3C-3L-黄褐色	口部:ナデ 窓部:ナ テラヘルメ	口部:ナデ 窓部:ナ テラヘルメ	良好	良	難破欠損
54	南側玉石 まじり層	土器質土器	窓	7.8	1.3	97	外縁:7.5Y4/4C-3L-灰色 内縁:7.5Y4/2C-3L-灰色 内底:7.5Y4/2C-3L-灰色 底:7.5Y4/2C-3L-灰色	口縁部:ナデ 底部:ハ ビナデ	口縁部:ナデ 底部:ハ ビナデ	良	良	
55	南側玉石 まじり層	土器質土器	窓	(7.2)	標0.9	90	外縁:7.5Y4/4C-3L-灰色 内縁:7.5Y4/4C-3L-灰色 内底:7.5Y4/4C-3L-灰色 底:7.5Y4/4C-3L-灰色	口縁部:ナデ 底部:ユ ビナデ	口縁部:ナデ 底部:ナ テラヘルメ	良好	良	
56	北側含金層	瓦質土器	複合	(27.6)	標4.9	10	外縁:10YR5/4/1-3L-黄褐色 内縁:7.5Y4/3C-3L-黄色 内底:7.5Y4/4C-3L-黄褐色 底:7.5Y4/4C-3L-黄褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	良	良	
57	北側含金層	土器質土器	窓	(25.8)	標5.3	10	外縁:2.5YR5/4C-3L-灰色 内縁:2.5YR5/4C-3L-灰色 内底:2.5YR5/4C-3L-灰色 底:10R5/6-6暗褐色 - 10R5/2灰 褐色	口縁部:ナデ 体部:ハ ラケズリ	体部:ハケメ	不良	良	難破
58	北側含金層	痕跡部	窓舟	(14.6)	標3.9	20	外縁:10S5/0赤色 - 5GY8/1 オーバー灰白色 内縁: 10GY8/1暗褐色 色斑: 10GY8/1暗褐色	口縁部:痕跡ナデ 底 部:痕跡ヘララケズリ	口縁部:痕跡ナデ 天外部:板状ヘララケズリ	良好	良	
59	北側含金層	痕跡部	窓舟	(12.2)	標2.6	5	外縁:7.5Y7/2C-3L-灰色 内縁:7.5Y7/2C-3L-灰色 内底:7.5Y7/1灰白色 底:7.5Y7/1灰白色	口縁部:痕跡ナデ 天外部:板状ヘララケズリ	口縁部:痕跡ナデ 天外部:板状ヘララケズリ	良好	良	
60	北側含金層	痕跡部	窓舟	標5.5	標2.5	5	外縁:5/7/2C-3L-灰色 内縁:5/7/2C-3L-灰色 内底:5/7/1灰白色 底:5/7/1灰白色	口縁部:痕跡ナデ 天外部:板状ヘララケズリ	口縁部:痕跡ナデ 天外部:板状ヘララケズリ	良好	良	口縫端部欠 損
61	北側含金層	痕跡部	窓	(23.4)	標5.9	5	外縁:NS5/0赤色 内縁:NS5/0赤色 (2.5GY8/3C-3L-黃 色) 黄褐色) 色斑: NS5/0灰褐色	口縁部:痕跡ナデ	口縁部:痕跡ナデ	良好	良	口縫から内 面に自然剥 離がある
62	中央含金層	痕跡部	窓	(19.8)	標6.8	10	外縁:N3/0暗灰色 - 10YR5/4C-3L-暗 色 - 10YR5/4C-3L-暗 色 - 2.5Y5/7灰白色 内底: 2.5Y5/7灰白色 - 10YR5/3 にシ-黄褐色 10YR5/6暗 褐色	口縁部:痕跡ナデ 天外部:板状ヨタキ	口縁部:痕跡ナデ 天外部:板状ヨタキ	良好	良	自然剥離
63	中央含金層	土器部	窓	(17.0)	標3.9	10	外縁:7.5YR5/4C-3L-暗 褐色 - 10YR5/4C-3L-暗 色 - 2.5Y5/7灰白色 内底: 2.5Y5/7灰白色 - 10YR5/3 にシ-黄褐色 10YR5/6暗 褐色	口縁部:ナデ	口縁部:ナデ - ハケメ	良	良	難破

第4表 TGS07-1 遺跡観察表3

## 第4章 平成21年度の調査 (TGS09-1)

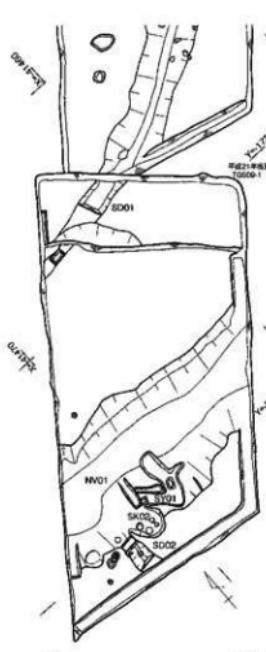
### 1 調査成果の概略

今回の調査は、平成19年度に実施した調査区の北西側160mを対象に、平成21年4月13日から5月27日にかけて現地調査を実施した。

重機による表土掘削を行った後、人力による包含層掘り下げ、遺構検出を行った。耕土（層厚約0.1m）、床上（層厚約0.05m）、にぶい黄褐色砂（層厚約0.2m）が全体的に堆積している状況が確認できた。遺構面は、石川の氾濫により堆積した砂礫を基本とするが、調査区南側において、明黄褐色シルトの堆積が認められ、この層の上面で遺構が検出された。調査区北東端から南東方向に幅3mにわたって一段高くなっている、南東側の主要な遺構が確認された面と約0.4mの高低差が認められた。なお、平成19年度の調査では、この面で遺構が検出されている。

### 2 遺構と遺物

#### 溝



< S D 0 1 > (第16図)

調査区北端で平成19年度の調査で検出された溝の続きが検出された。N - 60° - E の方向に直線的に走っており、調査区内の検出された長さが6m、最大幅1.4m、深さ1mを計る。溝の大部分は、平成19年度の調査区と同一面・同一レベルで検出されたが、西側は削平を受けており、溝底の一部のみが検出された。埋土は茶褐色粘質土であり、古墳時代の土師器・中世土器が含まれている。岡化できる遺物としては、土師質土器の壺(1)が出土している。隣接地で出土した遺物の年代を考慮すると、15世紀頃の遺構であると考えられる。

< S D 0 2 >

検出長2m、幅1m、深さ0.3m、W - 8° - N の方向に調査区南側に伸びる。褐色シルトが堆積しており、拳大から人頭大の礫を含んでいる。N V 0 1 に注ぎ込むような形で検出されたが、明確な切りあい関係が確認できなかったこと、堆積土が類似していることから、N V 0 1 と同時期の遺構である可能性が高い。

なお、土師器・須恵器片が数点出土したが、遺構の時期の特定は困難であった。

第11図 TGS09-1 遺構図(S=1/250)

## 土坑

### <SK 02> (第16図)

長軸1.5m、短軸1m、深さ約0.3m、主軸方向がW - 14° - Nの楕円形を呈する集石土坑である。褐色シルトが堆積しており、埋土に焼土塊が混じることから、隣接する木炭窯との関連性がうかがわれる。

なお、図化できる遺物として、土師器片(2)が出土している。

## 木炭窯

### <SY 01>

調査区南端部分で、NV 01に壊されるような形で木炭窯が検出された。窯体の主軸方向がW - 49° - N、長軸方向が2m、短軸方向が1m、奥壁側が方形で焚口に向かって窯体の幅が狭くなる形状を呈している。奥壁に煙道、煙道の反対側正面に焚口、側面に炭を焼き出すための横口が北東側に2箇所並んで設けられている。南東壁の高さが0.5m、南西壁の高さが0.4m、煙道の直径が0.2m、南東側の横口の直径が0.3m、南西側の焚口の直径が0.3m、焚口は0.2mを計る。

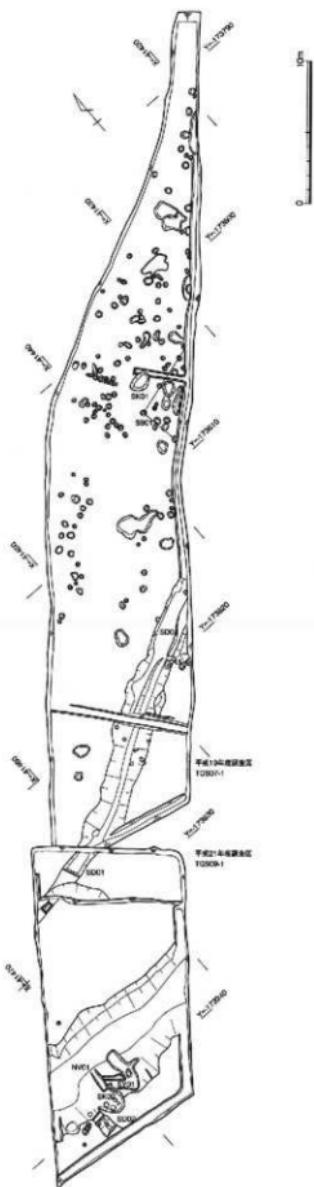
横口内部から横口前面にかけて、炭の堆積が認められた。天井部分は遺存していなかったが、窯体内部に焼土ブロックが堆積しており、このブロックが天井の一部であった可能性が高い。

なお、図化できなかったが、土師器片が数点出土している。時期を特定することは困難であるが、NV 01によって、窯体が削平されていることから、NV 01より古い時期の遺構であり、古代の木炭窯であると推測される。

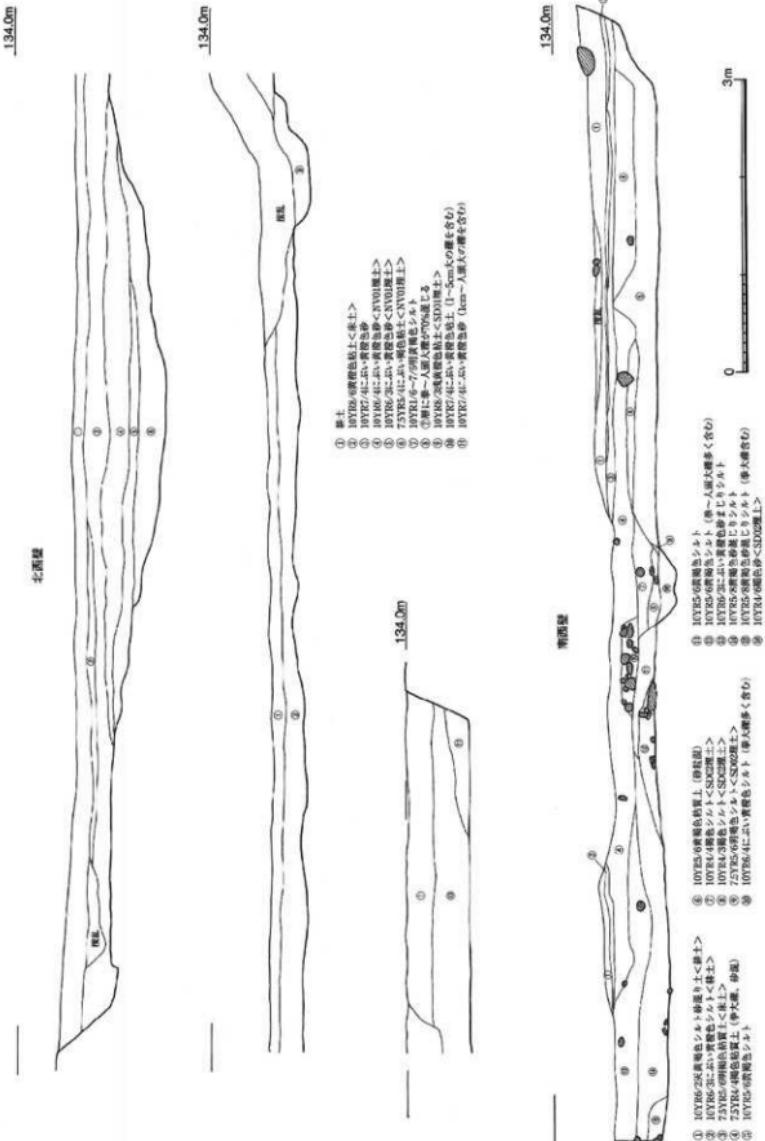
## 自然流路

### <NV 01>

検出長12m、幅5m、深さ0.5mの東西方向(N - 90° - E)の自然流路が検出された。石川に注ぎ込む流路のひとつであると考えられるが、埋土の主体



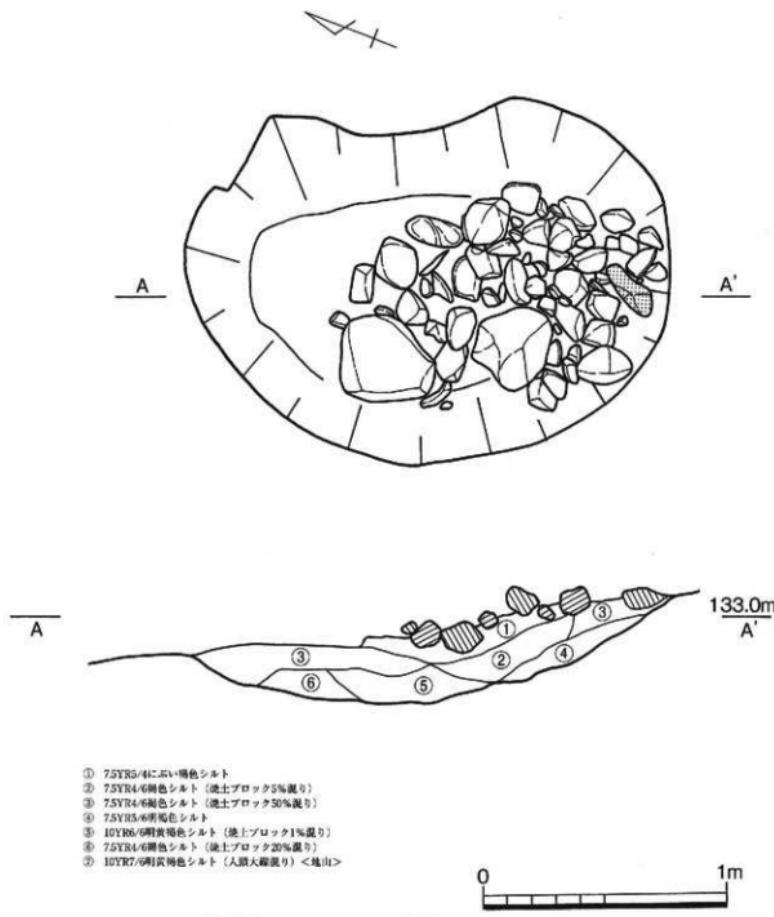
第12図 高向神社南遺跡遺構全体図



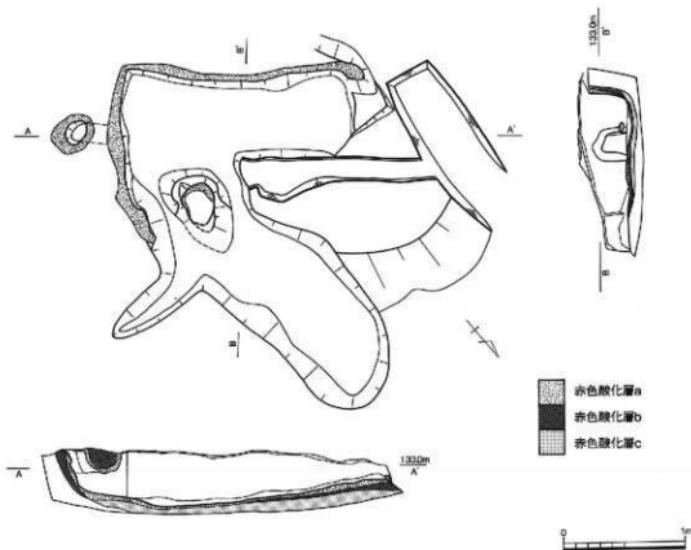
第13図 TGS09-1 土層断面図 (S=1/50)

は褐色粘土であり、最下層にSY01に伴うと考えられる炭を含んだ暗灰色粘土が堆積していることから、比較的穏やかな流れの流路であったと考えられる。

なお、固化できる遺物は出土しなかったが、土師器片が確認されている。当該遺構の明確な時期は不明であるが、堆積土に炭や焼土ブロックが大量に含まれていることや、遺構の切りあい関係から、木炭窯が作られた時期より後の遺構であることが推測される。



第14図 TGS09-1 SK02遺構実測図 (S=1/20)



第15図 TGS09-1 SY01遺構実測図 (S=1/40)

### 3 小結



第16図 TGS09-1  
遺物実測図

今回の調査では、木炭窯が検出されたことが注目される。市内では、丘陵部を利用して、窯が作られている例が多く認められ、三日市遺跡や長池窯跡群や寺元遺跡や日野觀音寺遺跡などで木炭窯が確認されている。

今回の調査では、木炭窯から時期を特定しうる遺物が出土しなかったことから、遺物から時期を明らかにすることは困難であるが、形状などの類例を検討したところ、古代の木炭窯であると推測される。なお、暦年代を特定するために考古地磁気年代推定用のサンプルを採取し、現在、解析中である。  
(島津)

遺物番号	遺構	埋 刀	器種	口径・底径 (cm)	基高 (cm)	残存率 (%)	色 級	外面状態	内面状態	焼成	胎土	備 考
64	S001	土師質土器	瓶	(17.0)	86.0	10	外側：10YR7/4に少し黄褐色 内側：無茶のたれ不規則 断面：5Y7/2鉄白質 外底：10YR7/4に少し黄褐色	口縁～全体：ナデ	剥落のため不明	良	粗	
65	SK02	土無器	片	(13.0)	残2.9	10	緑色 内側：10YR7/3に少し黄褐色 断面：10YR7/3に少し黄褐色	口縁部：ナデ 断面：ユビオサエ	口縁～底部：ナデ	良好	密	

第5表 TGS09-1 遺物観察表

## 第5章　まとめ

高向神社南遺跡は、府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」に先立つ試掘調査で新たに発見された遺跡である。今回の調査地の北側300m地点には、遺跡名に冠されている高向神社が所在しており、当該神社の創建は明らかではないが、平安時代の終わりごろや室町時代に作られた神像が伝わっており、この頃には周辺において人々が生活していたことがわかる。

今回の調査地の北西500m地点には高向遺跡が所在している。当該遺跡は、旧石器時代から中世の複合遺跡であり、奈良時代の掘立柱建物が発見されたことなどから、当時の有力氏族「高向氏」の本拠地であったと想定されている。昭和62年～平成元年に実施された国道170号（外環状線）整備に先立つ発掘調査では、特に、鉄滓とふいごの羽口が出土しており、製鉄が行われた可能性が指摘されている。一般的な傾向として、製鉄が行われていた遺跡では、製鉄遺構・製鉄関連遺物と共に木炭窯が見つかることが多く、今回の調査で検出された木炭窯との関連性がうかがわれる。市内で発見された木炭窯は、製鉄遺構が伴わない例が多く、窯のみが検出されている点が特徴的である。今回の調査において、木炭窯が検出されたことは、木炭の需要と供給を考える上でも重要な発見である。

本調査で検出された遺構は古墳時代と中世に大別できる。試掘調査において、古墳時代の遺物が出土したことから、古墳時代の遺跡であると想定して調査に臨んだが、新たに、15世紀代後半の遺物を含む溝が検出されたことが重要である。この遺跡は狭小な段丘面に営まれており、掘立柱建物1棟が検出されたものの、人々の生活の場であるとは考えにくい。しかし、周辺には当該時期の集落が広がる可能性が指摘でき、今後の調査の進展が待たれる。

(島津)

## 参考文献

- 大阪府埋蔵文化財協会 1989「高向遺跡」 大阪府埋蔵文化財協会
- 河内長野市遺跡調査会 1994「天野山金剛寺遺跡」 河内長野市遺跡調査会
- 河内長野市遺跡調査会 1995「寺元遺跡」 河内長野市遺跡調査会
- 河内長野市教育委員会 1971「長池窯跡発掘調査概要」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市教育委員会 1976「櫛原窯跡発掘調査概要」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市教育委員会 1988「河内長野市埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市教育委員会 1988「三日市遺跡発掘調査報告書Ⅰ」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市教育委員会 1988「三日市遺跡発掘調査報告書Ⅱ」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市教育委員会 2006「三日市北遺跡Ⅰ」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市教育委員会 2007「シリーズ河内長野の遺跡1 三日市北遺跡」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市教育委員会 2008「シリーズ河内長野の遺跡2 大師山古墳・三日市遺跡」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市教育委員会 2009「シリーズ河内長野の遺跡3 高向遺跡」 河内長野市教育委員会
- 河内長野市役所 1994「河内長野市史」第1巻上 河内長野市役所
- 河内長野市役所 1997「河内長野市史」第1巻下 河内長野市役所
- 関西大学考古学研究室 1977「河内長野 大師山」 関西大学

# 図版

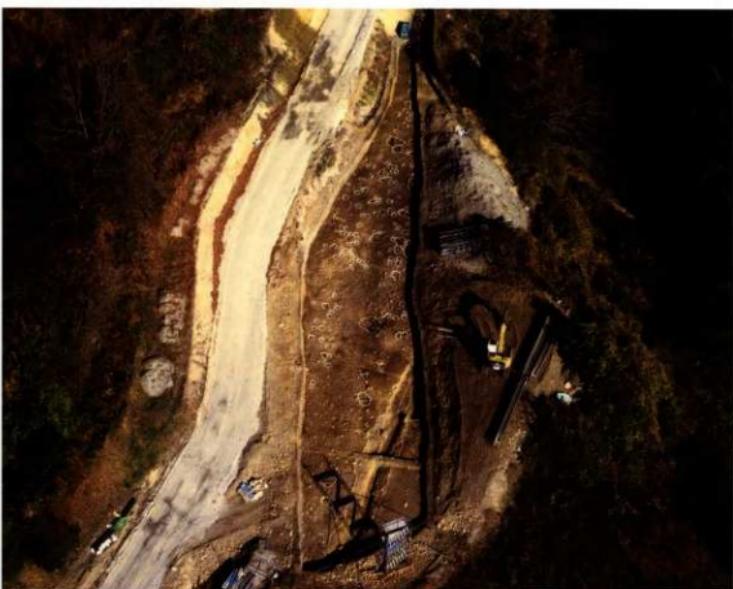




航空写真（北東より）



航空写真（西より）



平成19年度調査区全景



平成21年度調査区全景

図版3 高向神社南遺跡（平成21年度）



木炭窯土層断面（北より）



木炭窯完掘状況（北西より）

図版4 高向神社南遺跡（平成19年度）



調査区全景（航空写真）



調査区全景（北東より）

図版5 高向神社南遺跡（平成19年度）



SD01（南西より）



SD01（北東より）

図版 6 高向神社南遺跡（平成19年度）



SB01（北西より）

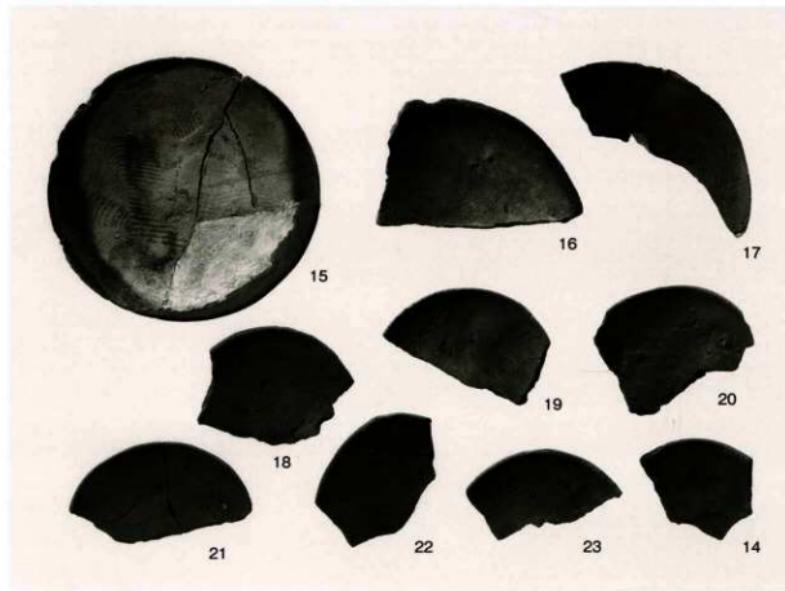
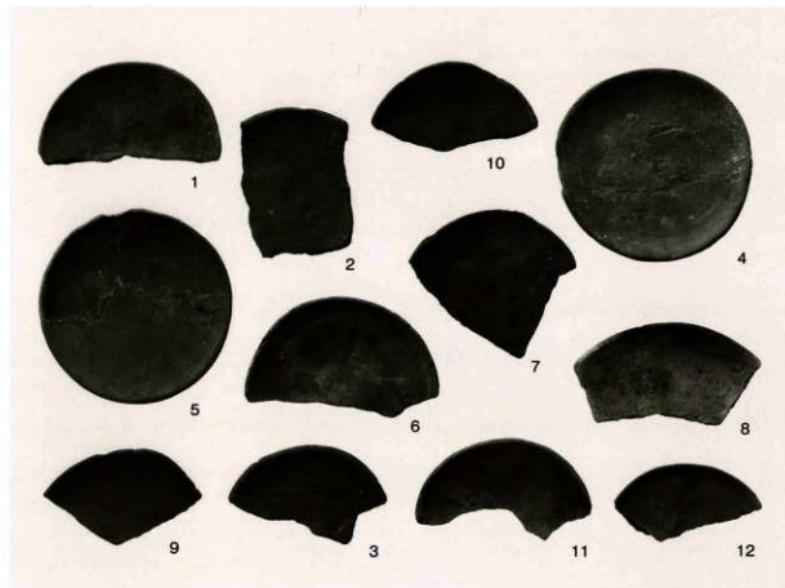


SK01（北西より）

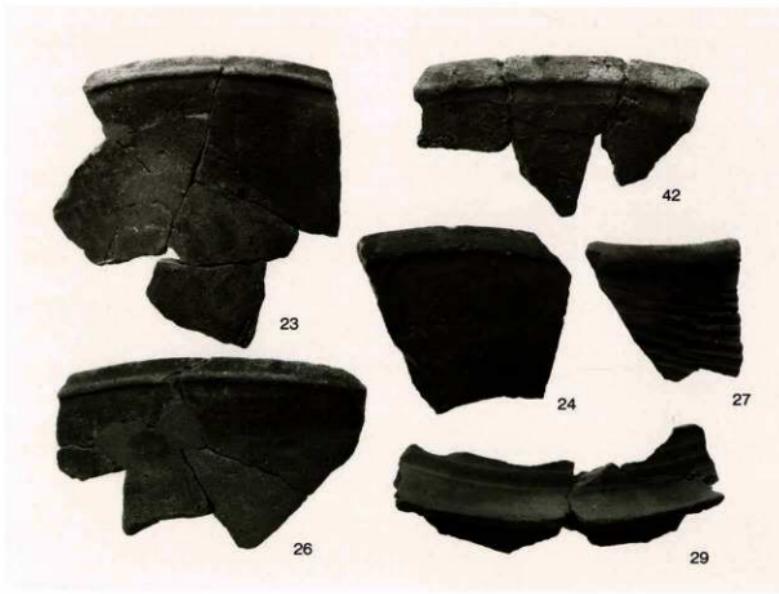
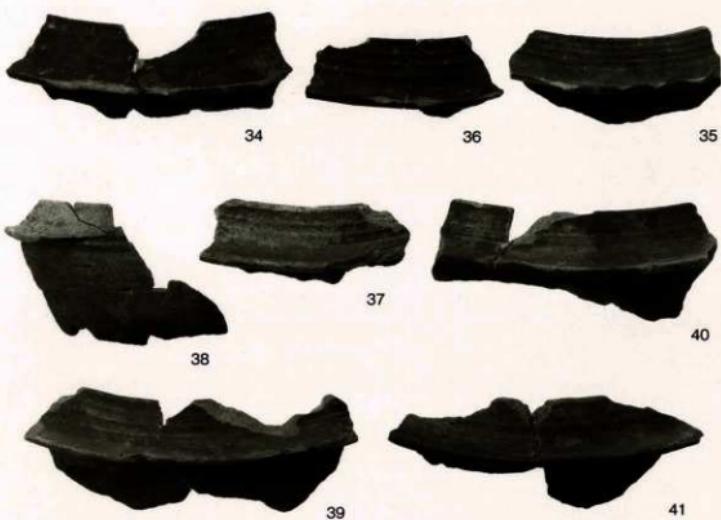
図版7 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物1



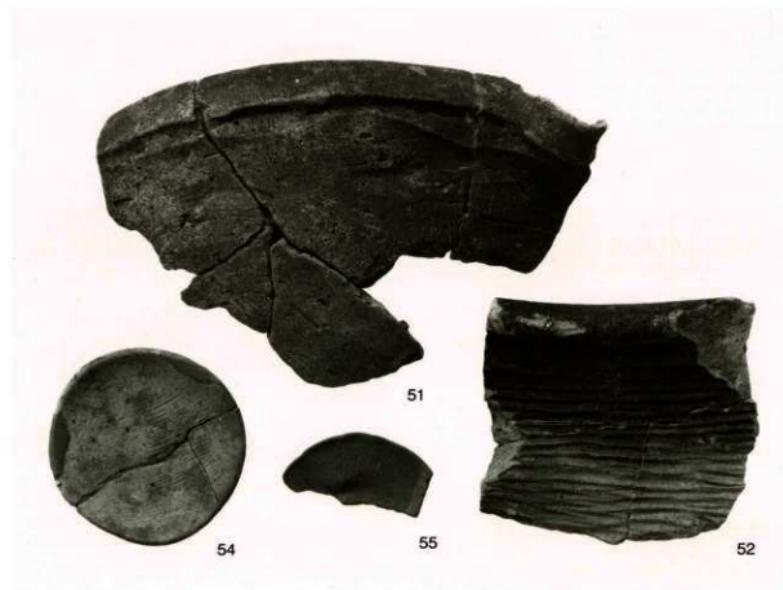
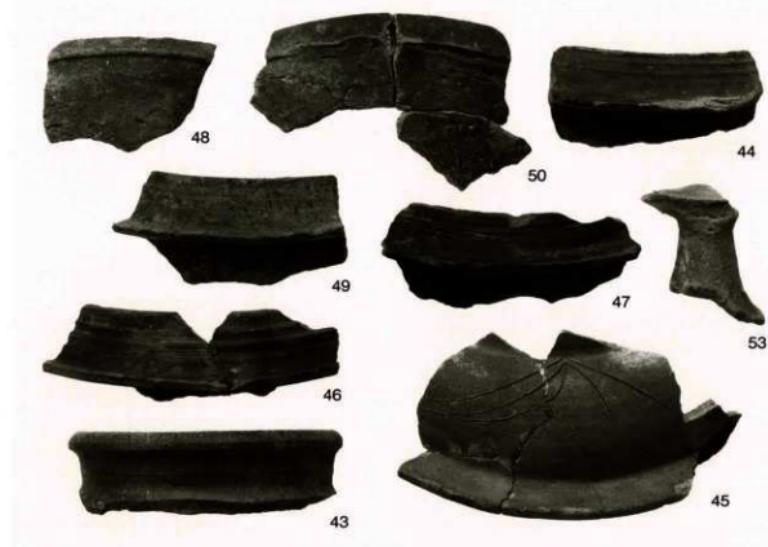
図版 8 高向神社南遺跡(平成19年度)出土遺物2



図版9 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物3



図版 10 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物4



図版 11 高向神社南遺跡（平成19年度）出土遺物5



61



63



62



56



58



59



60



57

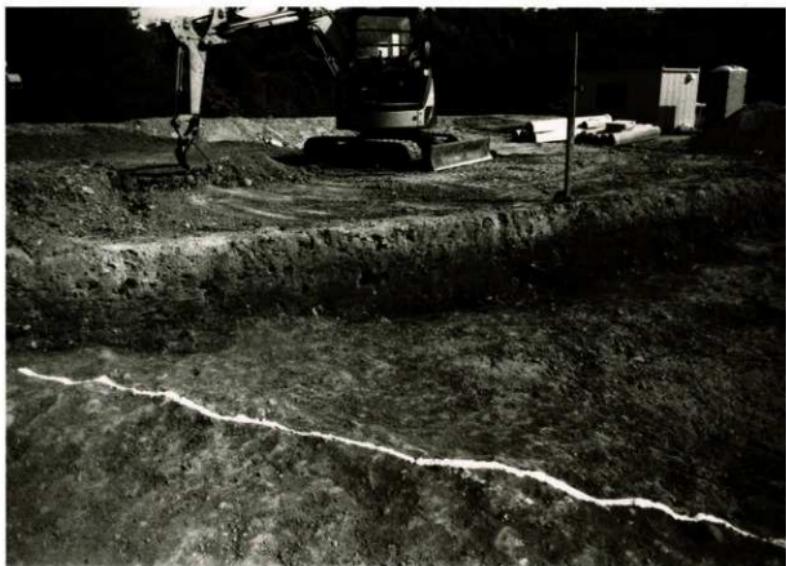
図版12 高向神社南遺跡（平成21年度）



遺構検出状況（南西より）



調査区全景（航空写真）



土層断面（北西より）



NV01（南西より）

図版14 高向神社南遺跡（平成21年度）



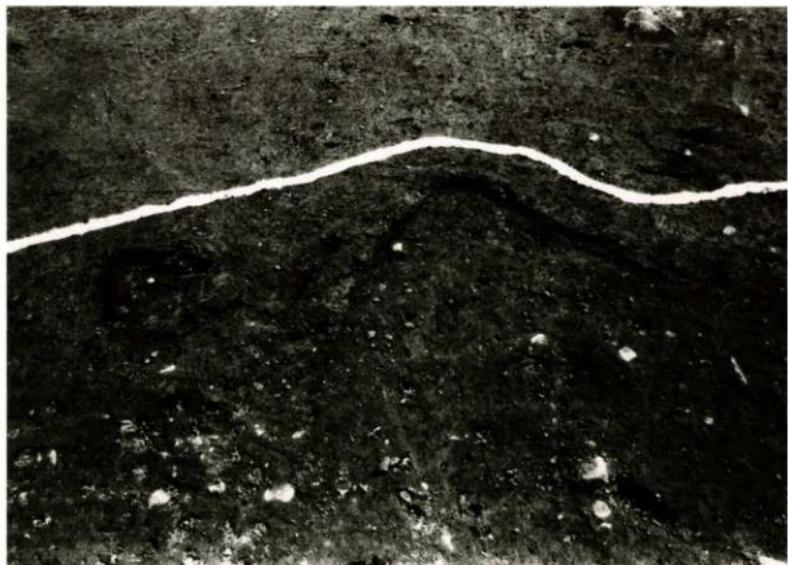
SD01（南西より）



SD02（東より）



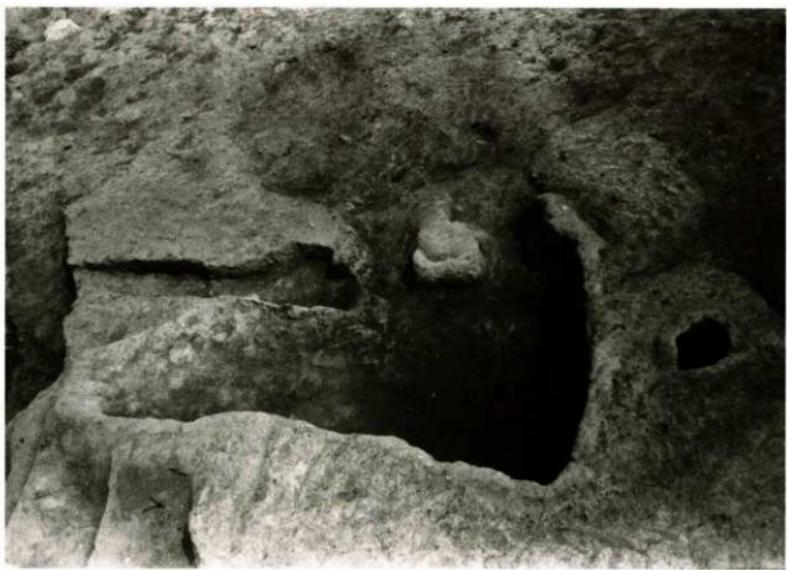
SK02（南東より）



SY01 検出状況（北より）



SY01 完掘状況（北東より）



SY01 完掘状況（南西より）



SY01 断面（南東より）



64



65

出土遺物

## 報 告 書 抄 錄

大阪府埋蔵文化財調査報告2009-6

高向神社南遺跡

-府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」に伴う発掘調査-

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目

TEL 06(6941)0351

河内長野市教育委員会

〒586-8501 大阪府河内長野市原町1丁目1番1号

TEL 0721(53)1111

発行日 平成22年3月31日

印刷 右川特殊特急製本株式会社

〒540-0014 大阪府大阪市中央区竜造寺町7番38号

